



CONTENTS

地域におけるHIV陽性者とその支援.....	01
HIV陽性者支援の取り組み in関西.....	02
冊子「たんぼぼ」がリニューアル.....	03
冊子「データで見る、ゲイ・バイセクシャルとHIV/エイズ情報ファイル 2010」発行！.....	04
部門報告（2011年1～3月）.....	04
2010年度総会・活動報告会のご案内.....	08

「地域におけるHIV陽性者とその支援」

生島 嗣

（元厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域における HIV 陽性者等支援のための研究」研究代表者）

私たちは2008年4月から3年間にわたり、地域でHIV陽性者を支援する活動現場から、研究活動を続けてきた。

ぷれいす東京やチャームなどNPOの相談員やスタッフ、保健師、医療ソーシャルワーカー、研究者などが参加し、以下の4つの柱で研究した。①HIV陽性者の生活実態の把握、②地域の支援者の実態把握、③地域の支援モデルの提示、④地域支援者の準備性を向上するための研修プログラム、ツールの開発、である。

■陽性告知後の支援の必要性

HIV陽性者や周囲の人たちの中で、相談や支援のニーズが高まるのは、HIV陽性告知直後の時期である。ぷれいす東京へ新規にアクセスした相談者を調べると、検査結果を知り1ヶ月以内での連絡がその3割を占め、半年以内で5割を超えていた。エイズ対策というと、HIV検査促進に集中しがちで、陽性告知後の生活イメージの提供や支援サービス提供は、とかく軽視されがちだ。

地域での支援の必要性を考えると、戦略研究首都圏グループが実施した首都圏ゲイバー顧客を対象にした調査結果からは、感染がわかった後の道筋が見えにくいことがHIV検査の受け難さにも影響を及ぼすことが示唆されている。また、保健所でのHIV検査よりも、一般医療機関で導入された検査で陽性が判明することが多くありながらも、むしろ一般医療での陽性告知に課題が多くあることを、相談の現場でも実感している。

厚生労働省のHIV検査相談体制に関する研究によると、受検後に陽性結果を受け取らない人や陽性結果を受け取っても専門医療機関の受診確認がとれない例が少なからず存在している。陽性告知から始まるべき支援の連続性が今の日本では十分とは言えない。

■地域の支援者の準備性向上に向けて

今後、治療の効果でHIV陽性者の高齢化もすすむが、一般住民向けサービスや福祉、特に障害者や介護領域でのサービスを利用しにくい状況があり、社会全体の環境整備が求められてもいる。

「地域における HIV陽性者等支援のための研究」では、地域の支援者の準備性を高める諸要因を概念的に整理し、それをもとに、研修プログラムの立案、効果評価を実践してきた。これは、HIVのスペシャリストを養成することをめざすのではなく、基本的な知識を提供し、ネガティブな疾患イメージを転換し、支援の実践につなげることを目指した。多様な障害者に相談・支援サービスを提供する東京障害者職業センターの協力を得て、全職員を対象に研修を実施し、前後に評価を実施した。そこで見えてきたことは、性やセクシュアリティに対して抵抗感が内在していることであった。また分析結果からは、HIVのイメージへの抵抗感やセクシュアリティへの理解が相談対応への自己効力感に関連していることも明らかになった。HIV陽性者を支援するための準備性を高めるためにはこれらを変化させることが重要であった。保健師を対象にした調査でも同様の結果が得られている。

■自己責任ではなく社会全体の課題として

地域の支援サービスを利用したHIV陽性者からよく聞くエピソードは、利用者であるHIV陽性者がサービス提供者の情報不足や無理解を啓発する役割を負わざるを得なかったという場面だ。こうした社会の状況が、感染を開示した上でのサービス利用を負担や苦痛に感じさせたり、窓口でのカミングアウトを躊躇させ、HIV陽性者をいっそう見えにくい存在にしている。

地域の支援者の最低限の理解やイメージの適正化を促進することは、個人の責任でなく、社会全体の課題だと考えている。こうした認識は国際援助の枠組みですでに指摘され、数値目標まで設定されている。日本のエイズ政策でも、きちん位置づけられてしかるべきだろう。

他にも多くの研究成果があるのでホームページを是非ご覧ください。

[地域における HIV陽性者等支援のためのウェブサイト]
<http://www.chiiki-shien.jp/>

HIV陽性者支援の取り組み in関西

～HIV陽性者のための電話相談とグループプログラム「ひよっこクラブ」～

関西地域での予防・検査・支援の普及と充実をはかるための活動が、エイズ予防のための戦略研究・MSM京阪神グループ(2011年3月まで)の一環として行われました。相談支援体制については、ぶれいす東京がノウハウを提供し、関西地区の陽性者・支援者が協働して立ち上げるという、地域を越えた試みとなりました。

「おかげさまで」

プログラム・コーディネーター 岳中 美江

HIV検査の受検促進には不可欠である支援相談環境の整備のために、陽性者サポートプロジェクト関西(POSP)が組織され、プロジェクトの運営やプログラムの準備・実施にあたってきました。関西地域の多くの方々と、ぶれいす東京の相談員の生島さんや新陽性者PGMコーディネーターの矢島さんには、多大なサポートをいただきました。

関西では陽性の人が集まる場所やつながる機会は増えてきてはいたものの、個別に相談できる窓口は限られていたため、まず陽性の人向け電話相談を立ち上げました。陽性とわかって間もない人を主な対象として2007年10月に開始し、後に陽性の人全般、パートナー・家族に拡げるなどの変化を経ながら、週1回実施してきました。相談員は当初の2名から5名に増えています。

陽性とわかって間もない人を対象にしたグループプログラム「ひよっこクラブ」は、新陽性者PGMを参考に関西風アレンジをしたものです。矢島さんとともに1年強の準備期間を経て、2009年8月に第1期を開始し、スタッフみんなで試行錯誤しながら、現在第6期の真っ最中です。戦略研究期間中の経験を活かしながら、電話相談とともに今後も継続します。

また、戦略研究をきっかけに、地域の支援者ネットワーク構築のために職場や職種を越えた集まりが始まったり、陽性とわかったばかりの人のための冊子「たんぽぽ」を大阪の複数の自治体が共同発行するようになったりしました。

陽性とわかった後に利用できるサポートが充実することは、それ自体の意義が大きいだけでなく、安心して受検しやすくなること、検査を提供しやすくなること、ひいては検査を勧めやすくなることにもなるのだと実感しています。今後も地域間および地域内のつながりを大切にしながら、活動していきたいと思えます。

◆電話相談より

「肌で感じて」

電話相談員 A

電話相談をさせていただいて一番感じることは、短い間に利用者の方のご様子の変化することです。最初は不安気にポツリポツリ話されていたのが、そのうち思いの丈をぶつけられ、それがだんだんと収まり、電話を切るときには声が少し明るくなって落ち着いた感じになる。その様子を感じて、こちらも何かほっとする。

もちろん、すべての方がこういう感じではありませんし、電話の向こう側なので実際のところはわかりませんが、このような道中にご一緒させていただけるのは、電話相談の醍醐味だと思います。

電話というツールは表情が見えないので不安なところもありますが、利用者の方のご様子を肌で感じられます。この方が本来持つておられる力を取り戻されたと感じることが、私の次につながるエネルギーとなっています。

◆ひよっこクラブより

「はじめの一步」

ピア・サポーター しゅん

僕は感染を知った頃に、東京で実施されているPGMの存在を知りました。同じ時期に陽性とわかった人たちと集うことのできるPGMに、どうしても参加したかったのですが、東京まで続けて通うことが難しく参加を諦めました。それ以降、僕のPGMへの片思いがはじまります。

新しい生活にも慣れた頃から、地域でサポートを行う方々に、自分の経験を交えながらPGMを関西で実施したいという思いを話して回るようになり、同じように必要性を感じる人たちと出会い、準備会が開かれそこに僕も参加をすることになりました。

実施を強く願ってはいったものの、自分がファシリテーターになるなんて想像もしていなかったので、プログラム開始までの過程は、楽しみでもあり緊張の連続であったように思います。実際にひよっこクラブに参加をして感じていることは、HIV陽性という共通点があることで、みんなが同じ環境にあると考えがちですが、グループで話をしてみると十人十色の多様な背景や考えを持っていることがわかり、影響し合ったり、気づきにつながったり、サポーターである僕自身も客観的に自分を見つめ直す場所になっている気がします。また、回を重ねるごとに変化して行くグループに同席することにはいつも感動します。

「ひよっこクラブ」という名称は、PGMを修了した方たちで開かれる同窓会の名前に由来しています。準備会の頃からアドバイザーに教わってきたこと、ご参加いただく皆さんのニーズに合った運営「それが本当にできているのか」この目線を忘れずにサポーターを続けて行きたいと思っています。

「HIVとの出会い、人との出会い」

スタッフ・サポーター 大野まどか

私は以前医療ソーシャルワーカーをしておりましたが、HIV陽性者への支援の経験はありませんでした。HIVに関してはほとんど何も知りませんでした。とあるきっかけでひよっこに参加させていただくことになりました。当初はひよっこのスタッフがHIV支援に長く携わってこられた方ばかりで、私がスタッフでいいのだろうかと不安が募ったことを覚えています。

グループが始まって感じたことは、参加者の方が持つて

いる「周囲の人に知られたら・・・」という不安の強さでした。これは想像以上のものでした。これまでさまざまな病気の方に接する機会がありましたが、「自分の病気をどう受けとめるか」に揺れ惑っているような時期に、加えて社会的偏見に伴う辛さを感じるのは HIV陽性者だからこそ、と言えるでしょう。

一方、一人ひとりの人間の中にある「力」も参加者から感じます。つい1か月前には空の色も目に入らないような面持ちでいた方が、回を追うごとにお互いで繋がり合えるようになり、3回のグループが終わる頃には自分の横にいるひとの身になって、声をかけています。疾患や抱えている問題の違いを超えて、人間の尊厳を感じさせられます。

「ほんとにしたかったこと」

メディカル・サポーター 松浦 基夫
もう15年も前、私が始めて HIV陽性の結果を伝えた人

のことです。彼は表情を変えることなくその結果を聞いていましたが、どのように受け止めてくれたのか私のほうが不安でなりません。そこで「スマイル」という陽性者のグループのメンバー2人と彼と私の4人で、難波で食事をすることにしました。そこで見せた彼の表情を私は忘れません。

ひよっこクラブではメディカル・サポーターとして「お医者さんと話そうか」を担当しており、必要な医療情報をコンパクトに伝えることが私の役割です。参加者からの質問は思いがけないものもあり、楽しみにしています。「どんなことに気をつけて生活すればいいですか？」との質問。「別に今まで通りでええんとちゃう」との回答。どのような病気でも同じなのですが、病気はその人の一部に過ぎません。参加者が身に纏わされている桎梏を、少しでも解き放すことができればいいな、との気持ちでひよっこクラブに参加しています。

冊子「たんぽぽ」がリニューアル ～全国の自治体で複製出版が可能に～

HIV陽性とわかったばかりの人のための冊子「たんぽぽ」(編集・発行：東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課／制作協力：ぷれいす東京)がリニューアルし、全国の自治体で複製出版ができるようになりました。すでに、関西の複数の自治体による合同版が発行されています。

「たんぽぽ～平成23年2月発行にあたり～」

東京都福祉保健局健康安全部

感染症対策課エイズ対策係 亀井 幸子

東京都発「たんぽぽ」を平成23年2月増刷しました。この冊子は、東京都とぷれいす東京の HIVにかかわる関係者が陽性者の方々の声を聞きながら、HIV陽性告知を受けてから間もない方に向けて届けたい情報をまとめたものになっています。今回は、これまでの「たんぽぽ」の表紙をリニューアルし、相談窓口等の情報を更新しました。

生活のこと、体調のこと、パートナーや家族のこと、いろいろ考えて悩んでしまう前に是非手にとってお読み下さい。お役に立つヒントや情報がきっと得られると思います。

この冊子は、これまで多くの自治体から活用したいと言う声をいただいていた。今後は、「たんぽぽの複製出版に関するガイドライン」に基づく申請手続きにより、全国の自治体で発行可能となりました。全国の HIV陽性告知を受けてから間もない方の支援にご活用いただければ幸いです。

※複製出版に関する問い合わせ：

東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策係
03-5320-4487 亀井

※PDF版もインターネット上からダウンロードすることができます。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/koho/kansen/files/tanpopo.pdf>



リニューアルした「たんぽぽ」の表紙

目次

- ・ HIV陽性を告げられたあなたへ
- ・ エイズってどんな病気？
- ・ 病院に行くってどういうこと？
- ・ 日々の暮らしはどうなるの？
あなたが快適な毎日をおくるために
- ・ 日々の暮らしはどうなるの？
あなたらしいセックスライフのために
- ・ 伝える？ 伝えない？ あなたのために…
だれに？ どこまで？
- ・ あなたのプライバシーについて
- ・ 役立つ制度や情報
- ・ 相談窓口

冊子「データで見る、ゲイ・バイセクシャルと HIV/AIDS情報ファイル 2010」発行！

エイズ予防のための戦略研究（研究リーダー：市川誠一）は、検査を受ける人を2倍に増やし、気づかずにエイズ発症してしまう人を25%減らすことを目標とした国のプロジェクトです。MSMのHIV感染対策を重要課題として2006年度に始まり、2011年3月に5年間のプロジェクトを終了しました。その最後に発行された冊子をご紹介します。

「データから考える、ゲイ・バイセクシャル男性とHIVの現状とこれから」 岩橋 恒太

この5年間、新宿や上野、浅草、新橋、横浜野毛など様々な地域のバーに伺い、HIVとゲイ・バイセクシャル男性についてお話してきました。その際、ママさんから例えば「感染がわかったらどうなるの？」、「ゲイの中でHIVってどれくらい流行ってるの？」、「コンドームしてれば大丈夫ってほんと？」など、相談に使える情報が欲しいとの声を多くいただきました。

そこで、ちょっとした調べものに役立つ情報ファイルを作るという目的で、この冊子が企画されました。この2月にもMEN-Doキャンペーンバー・アンケートを実施させていただきましたが、そうしたゲイ・バイセクシャル男性向けに行われてきたアンケートや、HIVの最新情報などを紹介しています。

戦略研究はこの3月で終了となりましたが、何らかの形で継続できないか、検討を続けています。今後のゲイ・バイセクシャル男性とHIV対策について考える際のツールとしても、この冊子が活用されたいと願っています。また現在、HIVマップ (<http://www.hiv-map.net/file/>)でも冊子と同じ内容が見られるように準備しています（今夏公開予定）。そちらもぜひご覧ください。



もくじ

- [基礎知識] ----- HIVとエイズって、違うの？
- [現在の治療] ----- 「HIV=死」じゃないって、ほんと？
- [流行状況] ----- ゲイ・バイのあいだで、
HIV/AIDSはどのくらい増えている？
- [検査] ----- ゲイ・バイは結構、HIV検査に行っている？
- [セーフターセックス] ----- ゲイ・バイは結構、
コンドームを使っている？
- [依存症] ----- ドラッグは大変だ！
- [通院・仕事・セックス] ----- HIV感染がわかった後の、
生活ってどうなるの？
- [支援制度・カミングアウト] ----- 陽性者をサポートするもの
- [よくある質問] ----- 相談の現場から相談員が答えます

部門報告 (2011年1～3月)



ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	4
総時間(時間)	16	16	16
相談員数(延べ人)	4	5.5	5.5
相談件数(件)	26	36	26
うち(男性)	21	24	23
(女性)	5	12	3
陽性者相談	0	1	1
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	6.5	9.0	6.5

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	12	12
総時間(時間)	36	36	36
相談員数(延べ人)	27	31	28.5
相談件数(件)	213	186	133
うち(男性)	176	151	107
(女性)	36	35	26
(不明)	1	0	0
陽性者相談	1	3	1
要確認相談	1	0	0
1日平均(件)	17.8	15.5	11.1

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

1月	7日	電話相談年始め
	12日	個別フォローミーティング (2名)
	13日	東京都ボランティア講習会 [薬物依存とHIV] (7名)
	14日	東京都電話相談連絡会 (3名)
	16日	世話人会 (8名) スタッフミーティング (14名)
	27日	研修生ミーティング (2名)
2月	2日	研修生ミーティング (2名)
	9日	研修生ミーティング (2名)
	10日	研修生ミーティング (2名)
	15日	研修生ミーティング (2名)
	18日	東京都電話相談連絡会 (3名)
	20日	世話人会 (6名) スタッフミーティング (17名) 個別ミーティング (2名)
	24日	研修生ミーティング (2名) 個別ミーティング (2名)
	26日	個別ミーティング (2名)
3月	4日	個別ミーティング (2名)
	5日	個別ミーティング (3名)
	8日	東京都電話相談連絡会 (3名)
	20日	世話人会 (4名) スタッフミーティング (14名)
	28日	シフト担当ミーティング (2名)

東京都の相談件数を見て頂くと、1月に213件だったものが、3月には133件になっています。東日本大震災の影響を強く受けていて、震災後は1日の平均件数が10件を切っている状況です。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。次の報告の時までに少し明るさが見えてきますように。

(報告：佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング (1-3月実績)

1/15：4人 1/20：7人 2/3：中止 2/17：3人
3/5：4人 3/17：3人
※ 個別ミーティング 7件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の15名の方に20名のバディスタッフを派遣

活動内容 (2011年3月末現在)

派遣継続中	20件
在宅訪問	12件
病室訪問	2件
派遣休止	5件
検討中	1件

1月～3月中の動き

- ・新規派遣 4件 ～在宅での支援、外出介助、通所支援、入院中の支援
- ・派遣調整 11件

5-7月のミーティング日程

午前ミーティング (偶数月第1木曜 11:00/奇数月第1土曜 11:00)
5/7 (土) 6/2 (木) 7/2 (土)
※ 木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。
午後ミーティング (毎月第3木曜 18:30)
5/19 (木) 6/16 (木) 7/21 (木)

バディの現場から

新規派遣が4件ありました。それぞれ、在宅での話し相手等での支援、車椅子利用者の外出介助、視覚に障がいのある方の通所支援、入院中の方の支援、となっています。11月から新たにバディ登録をした方、これまで待機されていた方、多くのスタッフの協力を得ながら調整をしています。また、年度末をすぎ、2010年度の活動をまとめていますが、バディ派遣はバディスタッフと利用者のみならず周囲の人 (家族・パートナーや医療従事者) との信頼関係なしでは成り立たないことを実感しています。みなさま、いつも活動に協力いただきありがとうございます。今後ともよろしくお祈りします。(報告：牧原)



NEST

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

NEST・プログラム参加状況 (2011年1-3月)

グループ・ミーティング

- ・新陽性者PGM第57期 (参加者7名)
1/29 2/19 3/5 3/15 (修了)
- ・新陽性者PGM第58期 (参加者7名)
3/12 3/26
- ・陰性パートナー・ミーティング
2/5 (6名)
- ・ミドル・ミーティング
1/9 (9名) 2/12 (5名) 3/12 (4名)
- ・もめんの会 (HIV/AIDSを支える母親の会)
2/15 (9名)
- ・カップル交流会
1/16 (10名)

学習会

- ・ストレスとうまくつきあうためのワーク第13期
1/17 (3名) 2/14 (3名)
- ・ベーシック講座「社会福祉制度」
1/19 (2名)

トークサロン

- ・就職活動を報告しあう会
1/15 (8名) 3/16 (5名)
- ・カミングアウト「する？しない？」
1/25 (2名)

その他のミーティング (陽性者メンバー、ぶれいず東京スタッフほか)

- ・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
3/28 (5名、6名)
- ・web NEST運営委員会
1/18 (4名、2名) 2/25 (2名、2名) 3/25 (2名、2名)

NEST・ニュースレター

1/13：1月号発行 2/18：2月号発行 3/18：3月号発行

「トークサロン」と「ベーシック講座」がはじまりました

1月より2つのプログラムがスタートしました。「トークサロン」は日頃疑問に思っていることを、可能な範囲でお互いの経験を共有しながら、少人数のグループでおしゃべりしながら考えようという企画です。「ベーシック講座」では、社会福祉制度などについて、ふれいす東京の相談員が基本的な知識をわかりやすく解説しています。ちゃんと知っておきたいという方におすすです。(報告:はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月	10件	(1日平均2.50件)
2月	8件	(1日平均2.00件)
3月	6件	(1日平均1.50件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

1月:0件 2月:0件 3月:1件

「エイズ予防のための戦略研究」アウトリーチ

3月で一区切りとなった「エイズ予防のための戦略研究」ですが、RainbowRingやJaNP+、横浜Cruiseの皆さんと共同で実施してきた都内の新宿地区以外のハッテン場などへのアウトリーチも3月で一段落となりました。

このアウトリーチでは、MSM向けの商業施設の方とのネットワーク、また一緒に活動をした他団体のスタッフの方との交流も生まれました。戦略研究は最終年度を終えましたが、今後モ何らかの形で引き続き実施できないかと検討しています。

(報告:sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2011年1～3月

	1月	2月	3月
電話による相談	172	140	206
対面による相談	50	55	42
E-mailによる相談等	143	136	223
うち新規相談	30	22	20

※メール新規は含まず

1～3月の新規相談者の属性 (N=72)

陽性者:	49人	(男性: 48)	女性: 1)
パートナー:	6人	(男性: 5)	女性: 1)
家族:	8人	(男性: 1)	女性: 7)
専門家:	6人	(男性: 4)	女性: 2)
その他:	3人	(男性: 3)	女性: 0)

※その他には判定保留、友人も含む

1～3月新規相談者の情報源 (N=72)

WEB(携帯含む)	29件	PSW	2件
陽性者	7件	友人/知人	2件
パンフレット等(たんぽぽ含む)	6件	チラシ	2件
家族	3件	看護師	1件
以前から知っていた	3件	カウンセラー	1件
電話相談(HL/Gフレ含む)	3件	拠点病院	1件
ダルク/アパリ	2件	東京都視覚障害者生活支援センター	1件
医師	2件	不明/その他	7件

1～3月新規相談の内容

【ミーティング/ネスト・プログラム利用等】

- ・PGM参加希望。(4件)
- ・ベーシック講座に参加希望。
- ・(母より)子どももがんばっているぶん、自分ももめんの会に参加を希望したい。
- ・もめんの会へ参加のためのインテークと利用登録。
- ・ミドルミーティング参加希望。
- ・陰性パートナーミーティング参加希望。

【ふれいす東京への参加、サービス利用】

- ・同じ立場の人と会ったりできる機会が欲しいと思い連絡をした。(3件)
- ・(きょうだいより)本人がバディを希望している。
- ・(きょうだいより)本人の対面相談に同席。
- ・(妻より)夫の対面相談に同席。
- ・「ハートをつなごう」を見てLIFE東海につながり、学会を通じてふれいすを紹介してもらった。[甲信越/北陸]
- ・(東京都視覚障害者生活支援センターより)センター通所のガイドをバディで依頼。
- ・本人とバディ派遣依頼の調整。
- ・主治医から生島さんを紹介してもらい、連絡をとってみた。[甲信越/北陸]。

【検査や告知】

- ・身体がずっとだるかったので友達に誘われて検査を受けたら陽性だった。
- ・即日検査を受けたら陽性。確認待ちであるが面談を希望。
- ・パートナーが受検して陽性と判明。自分も受検したほうがいいだろうか。[九州/沖縄]
- ・彼氏ができたため受検したら陽性と判明。
- ・近医にて他の病気の診断を受けたが、ネットで調べてから保健所で受検。陽性と判明。
- ・バーアンケートで答えて、自分にも思い当たることがあったため受検し陽性と判明。

【人間関係】

- ・(パートナーより)数ヶ月前からつき合っている彼から通知を受けた。これからのことについて不安。
- ・パートナーのためにカウンセリングを行っている医療機関を探している。
- ・友人が陽性と判明。友人にしてあげられることが何かないかと思い相談。

【心理的なこと】

- ・精神科に入院している。数日前、院内のカウンセラーに通知したら転院を言い渡された。[近畿]
- ・(きょうだいより)陽性が判明してから精神状態があまりよくない。本人が精神科を拒否しているがどうしたらいいか。
- ・本日感染がわかったばかり。どうしたらいいのかわからず混乱している。

【医療など】

- ・海外で陽性が判明。日本で受診をしたいと考えているがこの病院がよいか。
- ・Gフレから紹介してもらった。通院先を探しているので教えてほしい。
- ・薬が飲めなくて悩んでいる。[中国/四国]
- ・現在入院中。外出も禁止されているくらいのため、これからの病状が心配。[中国/四国]

- ・海外移住しているが通院は日本。移住先で医療機関を探している。
- ・保健所の即日検査で判明。紹介状をもらった病院の予約が一週間後。大丈夫だろうか。
- ・パートナーが発症して入院。あまり病状もよくないため不安。
- ・数日前に感染が判明。紹介状をもらった病院もあるが、土日通院を希望しているため他にあるか。
- ・近畿地方で通える病院を教えてください。(現在、他の拠点病院に通院中) [近畿]
- ・数日前に保健所で判明。通院先など教えてもらっているが病状が急変しないかと不安。[近畿]
- ・数ヶ月前、梅毒が判ったので検査をしたら陽性と判明。普通に暮らしているが不安。
- ・(友人より)福島県で被災している友人が服薬できないでいる。通院先とも連絡が取れないようだがどうしたらよいか。[中国/四国]
- ・数日前排便に異常があった。通院先が休診のため他の病院を受診したほうがよいか。

【生活や福祉】

- ・投薬はまだ始まっていないが、医療費はどれくらいかかるのか知りたい。
- ・身障手帳申請について主治医の対応に納得がいかず、手続きできないでいる。
- ・収入が途絶えて、生活できないでいる。生活保護を申請したい。
- ・生命保険のことで聞きたい。
- ・(パートナーより)彼の生活のことが心配。今後の医療費はどれくらいかかるのか。
- ・失効した生命保険を継続させるにはどうしたらいいだろうか。[九州/沖縄]
- ・退院し、次の週から仕事に復帰をするが医療費のことが心配。[東海]
- ・現在、路上生活で病院にも行ってない。ネットで0120を見つけて連絡をした。[地域不明]
- ・医師から身障手帳4級取得と言われたが、フェリーでは3級が取れるのではと言われた。
- ・現在入院中。今後の生活について相談したい。
- ・陽性が判明してから数年。ようやく今後の自分のことを考えられるようになった。
- ・感染直後の不安。生命保険を知りたい。
- ・医療費助成しておらず毎月数万円かかっている。障害者制度を利用したらプライバシーはどうなるか。
- ・地震に伴い、転居を考え中。東海地方の病院はどこがいいだろうか。
- ・(母より)脳に悪性のリンパ腫ができて陽性が判明。最近、文字が書けなくなるなどの症状がでていますが生活は大丈夫だろうか。
- ・確定申告の障害者控除について知りたい。[中国/四国]

【就労】

- ・入院が長引いたため、人事に医者から説明をしてもらったが次の日減給を言い渡された。
- ・就労のこと、今後の自分のことについて相談したい。

【専門家】

- ・(カウンセラーより)転院までの間に本人がバディを希望している。

- ・(ケアマネより)脳症の方で在宅介護を受けている人がいる。本人/家族にとって他にも方法があるのではないかと思ひ連絡。
- ・(医師より)入院中の患者(ぶれいす利用者)の今後について話をしたい。
- ・(他団体より)外国人でグループミーティング参加希望の方がいる。参加できるか。

【その他】

- ・(他国の大使館から)エイズ患者のビザのことを検討している。日本ではどのような対策・政策がとられているか。
- ・夫(+)婦(-)で子どもを望んでおり自然妊娠のデータがあったら教えてください。
- ・陽性者同士の結婚を考えている。ぶれいすでの掲示板で出会いを広げることができるか。[東海]
- ・1年前に亡くなった家族が陽性だと知らされた。同居していたが感染の可能性はあるか。
- ・(家族より)海外留学している子どもが陽性と判明。近日帰国予定のため通院先など目星をつけたい。[近畿]
- ・感染判明は十数年前。服薬・中断の繰り返しの中で薬物も使っていた。主治医からアパリを紹介してもらい現在はNAにつながっている。
- ・仕事が忙しくて体調管理が大変になっている。薬物を使用するようになった。

(報告：牧原/福原/生島/山本/神原)



研究部門

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)

「地域における HIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表者：生島 嗣)

- ・1/30に最終の班会議を行い(於ぶれいす東京)、2/19の研究発表会で研究班の平成22年度の研究結果等を報告しました(於東京通信病院)。
- ・成果物のツール「地域で HIV陽性者を支援する人のためのガイドブック」、「新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)運営マニュアル」、「職場と HIV/エイズ治療の進歩と働く陽性者一」、「『保健所等における HIV 陽性者への相談・支援に関する調査』報告書」、および平成22年度総括・分担研究報告書と3カ年の総合報告書を発行しました。「地域における HIV陽性者等支援のためのウェブサイト」にてデジタル版を順次公開しています(<http://www.chiiki-shien.jp/>)。
- ・東京都の人権相談機関の研修や、東京障害者職業センターの企業向け研修などに講師として協力しています。
- ・平成20年度より行ってきた本研究は、3月末日をもって3ヶ年の研究活動を終了しました。(報告：大槻)

エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー：市川誠一)

2006年度より開始した本研究は2011年3月末日をもって終了しました。

MSM首都圏グループ

- ・3/11に「首都圏における研究活動報告会」を実施し、5年間のプログラム展開等を報告しました(於東京通信病院)。
- ・「データで見る、ゲイ・バイセクシャルと HIV/エイズ情報ファイル 2010」を発行しました。「HIVマップ」にてデジタル版を今後公開していきます(<http://www.hiv-map.net/>)。詳しくは P4 をご覧ください。

- ・ゲイバーのスタッフ向け季刊誌「TOMARI-GI」10号(最終号)を発行しました。
- ・MEN-Doキャンペーン バー・アンケートを新宿、上野・浅草、新橋、横浜野毛にて2月に実施しました。協力店舗数が昨年より67店舗増え、177店のバーに協力いただきました。(報告：岩橋)

MSM京阪神グループ

「サポートプロジェクト関西 (POSP)」

- ・3/16の「戦略MSM京阪神グループ活動報告会」にて活動を報告。4月からNPO法人チャームのプログラムの一部になる予定。

- ・POSP電話相談～4月からは「HIVサポートライン関西」と改名
 - 1月：4件(陽性者本人1、パートナー・家族1、対象外2)
 - 2月：1件(陽性者本人1)
 - 3月：4件(陽性者本人1、対象外(感染不安)3)
 - ・ひよっこクラブ
 - 第5期：2/5、2/19、3/5の土曜夜コース
参加者5名にて修了。
 - 第6期：3/26、4/9、4/23 土曜夜コース。
参加者6名(定員)で開催中。
 - ・たんぼぼ関西版が大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市の合同会議で準備され、発行された。
- ※電話相談、ひよっこクラブ、たんぼぼ関西版の関連記事はP2以下をご覧ください。

(報告：生島)

特定非営利活動法人ぶれいす東京 2010年度総会・活動報告会のご案内

ぶれいす東京の総会・活動報告会を今年も開催します。恒例のリレー式部門報告は、それぞれの部門から、日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。様々な活動の広がりを感じていただければと思います。

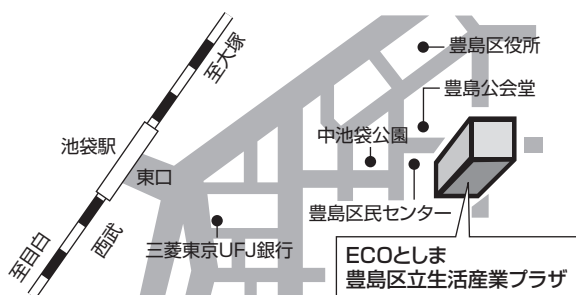
また、トークコーナーのゲストは阿古智子さん(早稲田大学国際教養学部准教授)です。「HIV/エイズからみえる日本と中国」と題してお話いただきます。今、中国では市民社会が急速に育っているといえます。在中国日本大使館勤務経験があり、市民社会とのつながりを持つ阿古さんから、中国におけるHIV/エイズと市民社会の現状を紹介しつつ、今後の日本と中国の市民社会のあり方を考えていきます。

■開催日

2011年5月28日(土)

■会場

豊島区立生活産業プラザ「ECOとしま」
多目的ホール(8階) 豊島区東池袋1-20-15
(池袋駅東口より徒歩7分)



第1部 総会 17:40～18:10

- * 総会の議決に参加できるのは正会員のみです。活動会員、賛助会員の皆様も総会に出席いただけますが、議決権はありません。あらかじめご了承ください。

第2部 活動報告会 18:30～21:00(開場は18:15)

- ・あいさつ
- ・部門報告
 - ホットライン/Peer Empowerment Program/
バディ/ネスト/Gay Friends for AIDS/
HIV陽性者への相談サービス/研究部門
- ・トークコーナー 阿古智子さん(早稲田大学国際教養学部准教授)「HIV/エイズからみえる日本と中国」

- * 活動報告会はどこでも参加できます。ぶれいす東京の会員、賛助会員、寄付者、ネスト・プログラム利用者、招待者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円をいただきます。

- * 活動報告会後に懇親会を予定しています。(会費制)

- * 当日は、ぶれいす東京事務所と「ゲイによるゲイのためのHIV/エイズ電話相談」はお休みです。「ポジティブライン」は通常通り行っています。

- * 当日の連絡は下記携帯電話までお願いします。
ぶれいす東京携帯電話 080-5387-8341(17:00より)

編集後記

- ・天使も夢見る春…気がつけば桜も終わり、ハナミズキの季節。花も良いですが、黄緑色の葉が好きです。(こんどう)
- ・先日あるコンサートで、クラウン(ピエロ)のパフォーマンスをみた。こんな時だからこそ、本当にシンプルな笑いがとって心にしみた。(いくしま)
- ・冊子や報告書やWEBの編集が同時並行している中での69号の発行となりました。このところ長時間PC作業をしていたり、夜遅くまでニュースを見ていたり、食事を抜いてしまったり。このあたりで軌道修正を少々…できるかな?(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
TEL：03-3361-8964(平日12～19時)

FAX：03-3361-8835
E-mail：info@ptokyo.com

ぶれいす東京HP：<http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS：<http://gf.ptokyo.com/>
web NEST：<http://web-nest.ptokyo.com/>